

第1回 富士市セルロースナノファイバー(CNF)関連産業推進構想策定会議 議事録	
日 時	平成30年8月2日(木) 15:00~17:00
場 所	富士駅北まちづくりセンター
出 席 者	<p>【委員】 日本製紙株式会社 河崎委員、五條製紙株式会社 片山委員、ポリプラスチック株式会社 松島委員、ユニプレス株式会社 小島委員、東京大学 磯貝委員、静岡大学 青木委員、金沢工業大学 影山委員、静岡県経済産業部 松下委員、富士工業技術支援センター 佐野委員、新エネルギー・産業技術総合開発機構 渡邊委員</p> <p>【事務局】 仁藤副市長、成宮経済産業部長、米山産業政策課長、野毛統括主幹、平野、尾崎株式会社クニエ（高橋・宇田）</p>
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状の交付 3. 副市長挨拶 4. 委員紹介 5. 会長及び副会長の選任 6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 富士市の概要・現状等について (2) 推進構想の構成・策定スケジュール等について (3) CNFにおける国内外及び富士市の動向等について
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 富士市の概要・現状等について ・ 推進構想の構成・策定スケジュール等について ・ CNFにおける国内外及び富士市の動向等について

1. 開会	
2. 委嘱状の交付	
事 務 局	(仁藤副市長から委嘱状交付)
3. 副市長挨拶	
副 市 長	(仁藤副市長挨拶)
4. 委員紹介	
河 崎 委 員	<p>日本製紙の河崎と申します。CNF 研究所を昨年9月に富士工場に移転し、山口県岩国工場で働いていた研究員も富士に呼び寄せ、富士を中心に CNF の研究を行っていきたいと考えています。静岡県や富士市には沢山工場がありますので、色々な企業等とコラボできればと思います。また、このような構想策定委員会を通じて、CNF の発展につなげていければ、日本製紙としてもありがたいと思います。</p>

片山委員	五條製紙の片山と申します。富士市の中では中小企業の製紙会社ですが、CNF を研究し、CNF を使用した蒸着紙や抗菌保湿ティッシュなど製品化にも結びついています。富士市の中小企業の中でも元気な会社があることを見せたいと思います。
松島委員	ポリプラスチックの松島と申します。弊社は、エンジニアリングプラスチックの専門メーカーです。CNF はポリアセタールやポリブチレンテレフタレート等に混練することで、新しい機能の付加や、不具合解消などにつなげていければと思います。CNF を使用する側としては、CNF を活用することで、単に強度を向上させるのみでは費用対効果が低いと思います。皆様のご意見を伺いながら、新しい素材により、新しい活用を考えていければと思います。樹脂の立場での意見になりますが、どうぞよろしくお願い致します。
小島委員	ユニプレスの小島と申します。弊社は日産自動車を中心とした車体骨格やトランスミッションなどを製造しており、富士市にも工場がございます。主に鉄などを中心に扱っており、私自身ユニプレスにお世話になったのは3年前からです。前職では新日鉄住金に所属しており、自動車工場に関わってきました。自動車開発の用途開発において、どのようなことが必要とされるか等については得意としていますし、私自身も色々勉強させていただきたいと思います。
磯貝委員	東京大学の磯貝と申します。大学の研究室ということもあり、基礎的な研究を中心に行っています。富士という場所は、資源が豊富で水もあります。特に富士山の伏流水は質が大変よく、今後ナノセルロースの応用を考えるうえでも、水の品質に影響されると思います。富士市には、水もあり、産業もあり、港もあり、交通の便も良く、立地的にも非常に優れていますので、このアドバンテージを活かして、産業振興につなげていただければと思います。
青木委員	静岡大学の青木と申します。静岡県が静岡大学に、ふじのくに CNF 寄附講座を開設し、10月に着任しました。前職は化学メーカーにおり、私の専門は高分子です。なぜ、CNF と高分子かといいますと、CNF と複合化しようとしている樹脂は水と油の関係で、なかなか混ざりません。前職では、CNF 用ではありませんが、ガラス、天然繊維などを混ぜるための分散剤をデザイン・開発した経験をしました。着任したからには、足跡を残せるよう、ビジネスの視点を持ち、実用化に向けてお役に立てればと思っています。
影山委員	金沢工業大学の影山と申します。金沢工業大学といいましても、私たちは東京にいます。そして、住んでいるのが静岡県の裾野市です。CNF 関係は3年前から行っていますが、隣の富士市で CNF の取組が行われていることに先日気づきました。前職は自動車会社にいましたので、出口側の視点からも色々意見を申し上げたいと思います。
松下委員	静岡県経済産業部の松下と申します。平成27年度に商工振興課長として、活動してい

	<p>る頃から CNF に携わってきました。今回の構想会議のメンバーは、日本の宝のようなメンバーですし、今後富士市が全国屈指の政令市になっていくことが予想されます。CNF の製品開発が進み、富士市が発展し、最終的に静岡県も発展していく絵も見えてまいりました。取組が大成功につながるよう、全力を尽くしたいと思います。</p>
佐野委員	<p>静岡県富士工業技術センターの佐野と申します。地方の公設研究機関として、中小企業の皆様の技術相談、共同研究、技術講習会等を事業として行っています。CNF につきましては、3、4年前から主に製紙分野と建材分野で担当してきましたが、この4月から CNF 科という専任の科を設置し、富士の技術支援センターに4名配置しました。これから本格的に取り組んでいきますが、これまで建材、紙に CNF を利用してきた取組を、今後更に CNF の試作も行いながら、出口、用途開発を広げていき、幅広いステージで入り口から出口までトータルで研究できるような体制にしていきたいと思えます。また、委員の皆様にもご意見をいただきながら、今後産学官連携をうまく築いていけるよう努めてまいりたいと思えます。</p>
渡邊委員	<p>新エネルギー・産業技術総合開発機構の渡邊と申します。NEDO は経済産業省の研究開発に関する予算のファンディングエージェンシーであり、ナショナルプロジェクトを推進して成果を出し、産業界に引き継ぐ仕事を現在行っています。CNF につきましては、前々職で、経済産業省の紙業服飾品課長をしていた際に、高度バイオマス産業創造戦略の取組を行っており、そのなかで CNF が 2015 年、2020 年に大きな市場を創っていく際に何をしていく必要があるかについて、当時磯貝先生にもご協力いただきながら取り組んできました。当時 CNF を社会実装していくために、素材を作る側ではなく、それらを作る機械メーカーや利用するユーザーなどを含めた出口企業も含めたコンソーシアムを作ろうということで、CNF フォーラムを全国規模で設立させていただきました。その後、その活動が拠点となり、富士市をはじめ、日本各地で CNF に着目し、ローカルアベノミクスを実践し、回していくためのキーテクノロジーとして活用していこうという動きが加速してきたように感じています。CNF につきましてはライフワークとして、できることは何でもしていきたいと思えます。近い将来、富士市が CNF のメッカになることを期待しています。</p>
事務局	(オブザーバー、事務局メンバー紹介)
5. 会長及び副会長の選出	
事務局	<p>松下委員より会長に静岡大学 青木委員、副会長に国立研究開発法人 渡邊委員が推薦され、承認された。</p>
青木会長	<p>そうそうたるメンバーの中で、私を推薦くださり、ありがとうございます。10月に静岡県の静岡大学寄附講座として着任させていただいていますので、静岡のため、富士市のため、大役を引き受けさせていただき、結果を出していきたいと思えます。よろしく願いいたします。</p>

渡 邊 副 会 長	青木委員長の采配の元、必要なことはしっかりサポートさせていただきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。
6. 議事	
(1) 富士市の概要・現状等について	
事 務 局	(資料 No. 1 を説明)
(2) 推進構想の構成・策定スケジュール等について	
事 務 局	(資料 No. 2 を説明)
青 木 会 長	富士市の補助金制度の応募件数はどのようになっていますか。
事 務 局	申請件数＝応募件数となっています。
青 木 会 長	せつかくの補助金制度に対して、企業の方々が手を挙げられない理由や原因はどのようにお考えでしょうか。
事 務 局	企業の方々が研究開発段階で、水面下で進めたい意向があることも推測しておりますし、補助金の使い勝手が悪い可能性もあるかと思ひます。今後、アンケートやヒアリングなども進めていくなかで、企業のニーズもくみ取り、CNF の実用化につながるような補助金制度の検討も行っていきたいと思ひます。
小 島 委 員	策定スケジュールの中で、市内企業へのアンケート、関係団体や市内企業へのヒアリングとありますが、このヒアリングはアンケート調査をベースに対象者を考えられるということによろしいでしょうか。
事 務 局	そのとおりでございます。
小 島 委 員	関係団体や市内企業へのヒアリングは、会議のメンバー以外にも CNF に興味がある方がいるかと思ひますので、そのようなことも考えられた方がよいかと思ひました。
松 下 委 員	富士市が出されている産学連携 CNF チャレンジ補助金、CNF トライアル補助金は非常に良い制度だと感じますが、補助率や審査の厳格度合などを教えていただけますか。
事 務 局	産学連携 CNF チャレンジ補助金は、補助率が3分の2で、上限が100万円となっています。CNF トライアル補助金は、サンプル購入費の一部を補助するもので、年額10万円(ただし、同一メーカーは1回まで)となっています。研究開発用 CNF 製造設備整備費補助金は、今年度から導入されたものですが、研究開発を目的に購入する製造設備購入費を補助率3分の2以内で、上限500万円で補助するものとなっています。

渡 邊 副 会 長	上限額を超えない範囲では3分の2で常に出しているのでしょうか。
事 務 局	補助対象経費の3分の2となっています。
渡 邊 副 会 長	(アンケート別紙を用いて) 静岡県の CNF 補助メニューでも富士市企業が活用できるのであれば、県の支援制度も周知できると良いかと思います。
(3) CNFにおける国内外及び富士市の動向等について	
事 務 局	(資料 No. 3 を説明)
磯 貝 委 員	大変積極的な取組をされており、大いに期待したいと思います。ただし、富士市の特徴を活かすこと、そして現在課題となっていることを明確にしていっての方が良いと思います。私が聞く範囲で多いのは、サンプルが手に入らないことです。CNF を扱ってみて、トライしている中でキラアアプリケーションを見つけていくわけですので、ある程度コンスタントに均一なサンプルを入手でき、トライすることが重要だと思います。初めは直観だと思います。各企業が自分の製品に CNF を何とか使えないかと思うところから始まることが多いと思いますので、初めから値段ありきだと少し気の毒に思えます。その分を、例えば市が一括購入し、誰にどのような目的でサンプルを配布するかは、市の判断で行うなども考えられると思います。また、キラアアプリケーションを即決できるのは、中小企業の方が、小回りが効くと思います。富士市の企業は大企業から中小企業まで様々ございますが、企業が自由に CNF サンプルを入手できるような仕組みを富士市で作る必要があるのではないのでしょうか。現在 CNF サンプルは原料、製造法など異なるものが 100 種類程度あり、それぞれの用途に適した CNF サンプルがあると思います。それらのサンプルが企業へ届くように間を富士市や工業技術支援センターが仲立ちする方法もあるかと思います。CNF の活用は、頭で考えてできるものではありませんので、機械やお金の補助というよりもサンプルを入手しやすくする仕組み、入手して使っていただくハードルを下げられないかと思います。また、サンプル入手の仲立ちをするにあたっては、報告や特許などの制限をかけないことが重要だと思います。CNF が手に取られるようになると課題が出てくるかと思いますので、その際には、大学、公設試などが相談に乗ることが可能だと思います。何とか早く実用化していただきたいと思いますし、小さなアプリケーションを沢山集めていくことが必要だと思います。
青 木 会 長	CNF のサンプルを入手しようすると水体のサンプルになります。プラスチックと混練する上で、水体のものだと効率が悪いので、固形状の CNF サンプルが欲しいのですが、そのような形では出してくれない現状があります。
影 山 委 員	私が CNF に取り組み始めたのは3年前からですが、CNF は頭で考えてもわかりません。しかし CNF サンプルを実際に自分の手で取り、試してみると、色々わかってきますので、試行錯誤することは重要だと思います。また、富士市が様々な取組を行うことは

	<p>大学、企業などにとってもメリットがあり、非常に良いと思います。しかし、最終的に富士市が豊かにならないといけないと思います。CNF の補助金制度等をはじめとした取組を行い、CNF の産業が豊かになることで、富士市や富士市民にとって、どのような効果がありそうなのかというところをバーチャルでも良いので明らかにできると良いと思います。</p>
青木会長	<p>CNF で産業を興して、皆が儲かり、時間をかけながら収入が高まり、経済が良くなるというような長期的な面はわかりますが、確かに民がどのように関わり、どのような利益があるかが直接的にわかると良いと思います。</p>
河崎委員	<p>サンプルの話がありましたが、我々も縛りをつけているサンプルと、つけていないサンプルに分けています。自信をもって工業的に同じものが作れるサンプルには、縛りはありません。しかしながら、特殊な樹脂に混ぜるためのサンプルなどは工業的に大量につくれるわけではありませんし、出荷できる量が限られていますので、制限をかけています。CNF を製造する側の課題としては、CNF 製造コストが高いので、いかに安価に製造するかを研究開発する必要があると思います。我々だけではできないところもありますので、長期的に取り組んでいく必要があります。官、学などに技術的な部分も含めて支援をしていただきたいと期待しています。設備的にも技術的にも課題はあり、安くする余地はあります。どちらかというところは現在は既存の設備で何とか CNF を製造している状況ですので、CNF を製造する特殊な機械などがあれば状況も変わってくるかと思っています。設備をつける際には、昔のイノベーション補助金は、企業としては、金額、パイロット設備と非常に魅力的な補助金でした。全てを企業側で負担するのは、厳しいので、市や県では難しいかもしれませんが、国などにも期待したいと思います。また、設備を動かす際には、人の問題がございます。人を集めにくい現状がございますので、今後どのような仕組みがあるかを考えていきたいと思っています。</p>
青木会長	<p>先ほど話にでてきましたイノベーション補助金は、どのような補助金なのでしょうか。</p>
渡邊副会長	<p>数億円単位で生産設備や生産性向上や省エネルギーなどにも活用ができる補助金です。</p>
片山委員	<p>サンプルの話がありましたが、CNF を活用する立場で申し上げますと、3年前に CNF を研究していた際はなかなか手に入りませんでした。今でこそ CNF サンプルの種類を選ばなければ活用できますが、当時は製紙会社が同業他社である製紙会社にサンプルを出すのは抵抗があったのか厳しかったです。幸い日本製紙さんのご協力の元、サンプルが手に入りましたが、今でもこれを欲しいとサンプルをお願いすると秘密保持契約が必要ですか、知的財産を出す際は必ず共同で出してほしい等の縛りが出てきます。そのような縛りがありますと新しい製品を開発しても自分のものにできませんので、それらは1つのハードルになるかと思っています。実際に CNF を扱ってみると、非常に扱</p>

	<p>いづらいことがわかります。逆に扱いやすいものは、代替ができるようなものが多いです。磯貝先生がよくおっしゃるキラアアプリケーション、CNF でなければならぬものは、扱っていくうえで、非常に難しいと思います。ただ単に混ぜて使うだけではなく、相溶化剤や分散剤など、鍵となるものを試行錯誤で見つけていかないとなかなか難しいです。我々も初めの1年間ぐらいは、壁にぶち当たり、なかなか目に見える成果が出てきませんでした。おそらく色々な企業の方もサンプルをもらい、試行錯誤していく中で、CNF は扱いにくいということがあると思います。大学などが CNF の活用法などを発表していくと、より使いやすくなると思います。</p>
<p>松 島 委 員</p>	<p>弊社で CNF を利用する可能性としては、エンジニアリングプラスチックの添加剤という形になり、数年前までは CNF のサンプル入手が、非常に手間がかかりました。樹脂素材の改質として CNF を積極的に活用するかというと、サンプル入手がしづらい、価格の不明確、量産体制も確立されてないとなると二の次になります。私達は、手段として色々な製品を扱いますので、そのようなときに、CNF が現在使われているガラス繊維やカーボンファイバーと同じ立場にあるかということ、明らかに劣っている状況で使いつらいと思います。CNF が他の素材と同じように使える状態になってこない、なかなか工業化は進まない実感があります。弊社として今 CNF を使うとなると、大学の基礎研究に近い形になってしまいますし、使う目的意識が見えない状況で使わざるを得なくなってしまいます。CNF がビジネスになるかということ時間がかかる印象があります。生産側である程度、先行的にこのくらいの量ならこのくらいの値段など、ある程度形が決まった状態になると次のステップとして利用する側は使いやすくなってくると思います。</p>
<p>青 木 会 長</p>	<p>CNF の価格目標は 2030 年に 500 円/kg を目指すとなっておりますが、本当にそうなるかということですね。現在、固形分換算だと約 20 万円/kg します。それが将来的に技術開発なども進み、最終製品として 2030 年に 500 円/kg になることがある程度明確になると、開発側も力の入れ方も異なってくるかと思います。CNF のハンドリングと価格の問題で企業の方々が使いつらい現状があるのかなと思います。</p>
<p>小 島 委 員</p>	<p>正直、私自身 CNF の手触り感がないところで話をする状況です。さきほど、車体骨格の話がありましたが、弊社でも樹脂のアンダーカバーなどを作っている領域があり、昔 CNF を扱った社員もいます。しかし、いまいよくわからなかったという状態のようです。CNF を試してみたいので、すぐ手に入る体制が欲しいということが1つあります。また自動車関連業界では、ひたすら軽量化を求められています。鉄から始まり、アルミ、CFRP(炭素繊維強化プラスチック)にいき、CNF にいくという流れに私自身は見えており、CFRP と CNF の価格を見ていくとどのくらい可能性があるかなど、まさにこれから勉強していかなければならない人が沢山いると思います。その人たちにとって CNF の情報は、勉強する気になれば取りにいけるとは思いますが、使う人の目線に立った対比的な情報などが、わかりやすく示されていると、CNF に対しての取り組みや</p>

<p>松 下 委 員</p>	<p>すさも違ってくると思います。CNF を富士市の一般的な人にも知らせた方が良いのではないかと思います。この商品は CNF から作られていますなど、1つ1つの商品がわかるようになっていき、CNF の可能性などが認知されていくと、より広がっていくのではないかと感じました。</p> <p>県で CNF を応援している最大の理由としては、平成 3 年のころ、紙業関連が 1 兆円以上あったものが、一時 7,000 億円に落ち込んだ現状がありました。現在は回復してきていますが、知事も含めて V 字回復させていきたいと考えています。紙で傷ついたところが、今度は CNF がルネサンスとして紙の未来を拓くような可能性をこの地域に持ってもらいたいと思いますし、県としてもそれを後押ししていきたいと思っています。CNF を行っていきますが、その前のカーボンファイバーも最終的に量産化されるまで約 20 年かかっています。CNF に凝り固まらず、CNF に取り組みながら、その間のつなぎのもので、生きていくすべを作りながら行っていく視点も必要だと思います。取組を進めていくうえでは、製品開発とビジネスマッチングが重要だと思います。オープンイノベーションがどのようにすればできるかという、競合領域とお互いに共通して行える領域を、それぞれ信頼できる小さな枠組みの中で、テーマを絞っていくことだと思います。例えば、日本製紙が中心となって、そのなかで、秘密保持契約になってしまうかもしれませんが、これで一つのサンプルを提供できる集団を作りながら、その中では技術、技能、データをある程度お互いに教え合います。しかし、本当に戦わなければならない状況もありますので、そこは棲み分けが必要だと思います。特に自動車業界などは、技能、データなど数値化したものを系列ごとに持っていますので、どこの部分をいかに共通領域として行い、競合領域はここというような区分ができれば、イノベーションが進んでいくと思います。それを国や県レベルではなく、小さなテーマごと、例えば CNF の軽量化のこの部分などの形で、小さな成功事例で良いので、自由度をある程度高く作っていければ、可能性が出てくるのではないかと思います。その基礎となるものは、アンケート調査になると思います。アンケートに回答した企業にメリットがあり、テーマごとに興味のあるところに丸をつけてもらうようにする必要があります。企業としては、どうすればできるかは教えてくれませんが、自分たちが何をできるかは PR したいと思います。アンケート調査の発展形として、企業の日利きができ、企業同士のマッチングの可能性が出てくると良いと思います。富士市のデータを、他のより大きい機関などと連結させると更に企業のマッチングを進んでいくと思います。共通領域としてお互い困らない範囲で、中核企業、大企業も関われる範囲でオープンイノベーションを作っていけないかと思っています。</p>
<p>青 木 会 長</p>	<p>私も常に開発で心がけている言葉があり、餅は餅屋と思っています。例えば、うちの会社はこれが強いという専門性を持った企業が集まるのが重要だと思います。CNF を複合化する中でも、CNF も必要ですが、化学処理、分散剤、機械屋など、様々な役割があり、それらが集まり、初めて均一化につながります。自分たちの人脈の中で行うやり方もありますし、市がマッチングするなど、様々なやり方があると思いますし、</p>

佐野委員	<p>行政側からもできるのは良いと思います。</p> <p>県の公設の研究機関として、新しい成長分野の1つとして CNF が取り上げられたことで、4年前から CNF に取り組んできました。当初は CNF を誰も触ったことがありませんでしたので、材料に詳しい研究員が、紙と建材の分野で携わって進めてきました。当初はサンプル購入が大変でしたが、徐々に入手もしやすくなってきました。入手できたサンプルを利用して、同じ実験条件で、それぞれの CNF がどのような特徴を有しているかを明らかにしていきました。一社で比較検討することは大変だと思いますので、県の立場で様々な CNF サンプルの特性を調べ、紙、接着剤など各々の用途も含めて取りまとめているところです。もうしばらくすれば、メーカーごとの製品特徴も明らかにできると思います。一つそのような共通の土俵で、利用される企業が CNF を選ぶ際の目安になればと思います。具体的な商品開発につきましては、市販の CNF を利用して、少ない添加量で大きな効果が得られるもの(例えば、化粧品など)が製品化に結び付いているように思える。CNF を作る場所から、CNF 製造メーカーと研究しながら、どのくらいの解繊度でどのような混練を行えば目的とする性能に近づくのかも、1つずつ解決をしながら製品化に結びつけられれば良いと思います。CNF 製造メーカー、製品開発企業、公設試で契約を結びながら行っています。また、県では CNF コーディネーターを3名配置しています。紙分野、プラスチック分野などの専門を持ったコーディネーターが、年間200日程度活動していただいています。企業訪問の形で、CNF を知らない企業から、製品化を考えている企業など様々な情報を集めています。このような情報も貴重なデータベースになりますので、我々も分析しながら、どのようなニーズがあるのか、どのような技術解決が必要なのかなど、今後の研究活動に活かしていきたいと思います。公開できる情報は公開していきながら、製品化のため、研究開発に取り組む企業を探していきたいと思います。</p>
渡邊副会長	<p>今後、具体的なアクションプランを検討する上で、いくつかポイントがあると思います。1つ目は、富士市のみで全てを解決しようとはいけないということです。逆に言うと、躊躇なく活用できるものは、外のものであれ何でも活用するというのが最初のポイントだと思います。また、先ほど事務局から説明があったように、関西地域を中心に先行的に地域を核にした拠点、情報発信、ネットワーク形成、人材育成などが立ち上がっていますので、それらの地域とパートナーシップを組み、うまく連携し、外のノウハウ、知恵、人材を巻き込んでいくことが重要だと思います。2つ目は、素材そのものとしての基本的なベースをつくるものは、製紙会社を中心となり、コスト削減などを図りながら、出口志向型の用途開発に結び付けていくことだと思います。素材テクノロジープッシュ型の開発を行ううえでのオープンイノベーション環境は、サンプルの供給と利用側でのキャッチボールをいかに早く行うことが大事だと思います。3つ目は、富士市が主役ですので、富士市が CNF のメッカになるためには、富士市に来ると何か良いことがあるという目に見える求心力がなければ、人も企業も集まってくれませんので、それが何なのかを考えていく必要があると思います。4つ目は人</p>

	<p>材です。支える人材がここにいなければ、中長期的な発展は厳しいと思いますので解決していただく必要があります。そのようなことを踏まえて、具体的な提案を2つ考えました。1つは、静岡大学に CNF 寄附講座が開設され、教育エンジンができました。愛媛大学の内村先生のところは、同じように愛媛大学で紙産業イノベーションセンターという新しいセンターをオフサイトキャンパス型で公設試の中に乗り込んでいき、施設、設備も活用し、地元の製紙会社の社会人も巻き込んで教育、共同研究、技術相談、論文作成などを行っています。このモデルを真似たらいかがかと思います。静岡大学のオフィササイトキャンパスを富士市にある県の工業技術センターの中に作り、そこで教育も、地元企業との共同研究もできるような仕組みを作り、人を育てていきます。製紙関連企業の集積が富士市にありますが、その大多数の方が CNF をどのように活用したら良いかわからないと思います。CNF そのものができたからといっても、用途開発をしなければなりませんので、いばらの道が待っています。その時のビジネスパートナーは、自動車部品メーカーや、化学品メーカーなど製紙関連業界とは全く関係ない業種の方だと思います。異業種の方とパートナーを組んで、自分が持っているものをどう使っていくのか開拓していかなければなりません。その時、相談に乗ってもらえるような指導者がいる教育の拠点が富士市にあれば、魅力の1つになると思います。2つ目は、日本製紙が富士市に研究拠点を移してきましたので、民活型で日本中の関連産業の誘致をこの地域に進める仕組みが作れないかということです。遊休設備が沢山ありますので、オープンスペースエリアにサンプルを使って共同研究的な活動をする企業を民活型で誘致をします。その場所を提供する某製紙会社に対して、県や市から補助を出します。そこでうまく事業化まで進んだら、工業団地を紹介するというように、呼び寄せて、パートナーを集めて、卒業させて新しい会社を興す流れを作ります。県や市もインキュベーション設備を持っていますので、それらを活用することも一つですが、出口志向型で行くのであれば、企業主導でできるだけ多く集めた方が後につながっていくと思います。そのようなサポートをしていく活動ができれば良いと思います。</p>
青 木 会 長	皆様の意見を参考にいただき、構想策定に役立てていただければと思います。
事 務 局	ご意見アンケートの説明。次回(10月)の開催予定の説明。